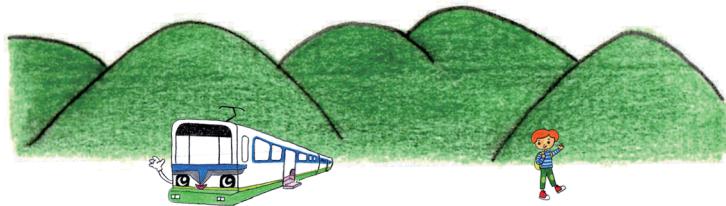


私と街とふくてつど。



地域と共に。
越前武生から
田原町 ゆき
発行 福井鉄道株式会社
イラスト やまぎしはるか

私
と
街
と
ふく
て
つ
。

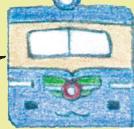


古い電車だけど、
大きな車体で「うしじ時には
たくさんの中学生や
学生を乗せて活躍していました。

日本中の鉄道ファンに
人気のある電車だよ

200形

福井鉄道
向かへ設計
せられている



現在は引退して北府駅で
後輩達を見守っています。

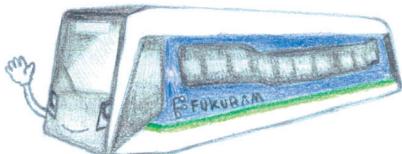
カラフルな色で福井の街を走ります。
今日は何色に会えるかな？ (FUKURAM)



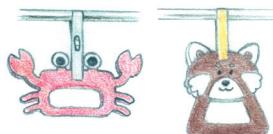
＼2023年春デビュー／

F2000形 (フクラムライナー)

最新の技術を備え、
福井をイメージしたデザイン。



越前ガニや西山公園の
人気者レッサー・パンダの
つり革がついているよ



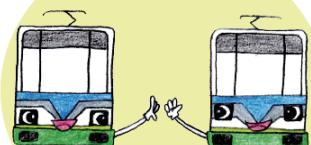
『ふくてつ』に乗ってみませんか。
ふくてつに乗って、見て、食べて、感じたこと。それらを私なりの言葉
で表現しました。

電車に乗るたびに
お気に入りが増えていく。
電車に乗るたびに
福井の街が好きになっていく。
私と街とふくてつと。
この本があなたの小さな旅のおともになれたら、私は嬉しいです。



ふくてつのりこ
越前市出身、22才

770形 880形



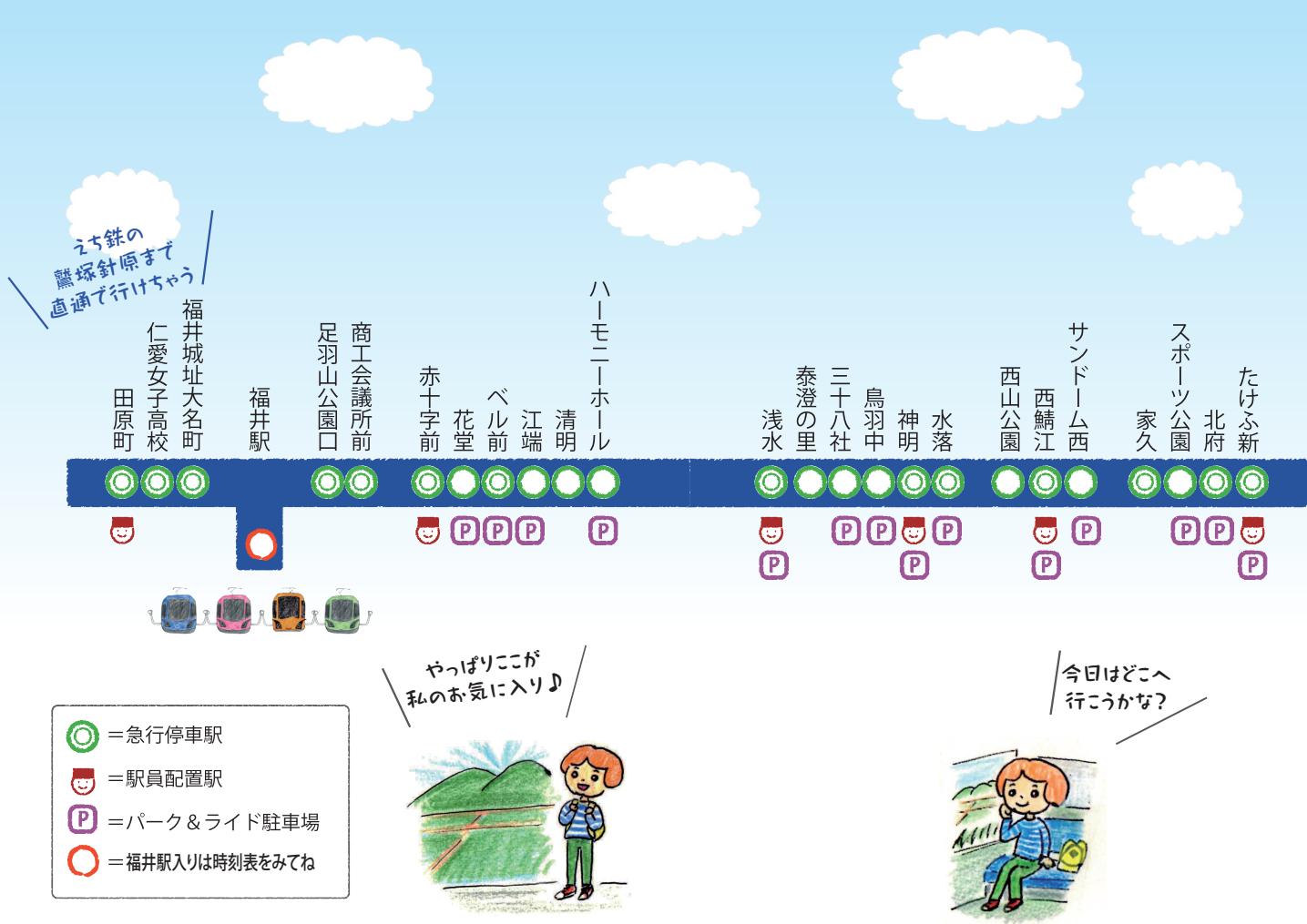
福鉄の看板車両
まだ走り続けるぞ！



ドイツ生まれの
スマートなデザイン。
縦に並んだヘッドライトと
欧風を漂わせる内装にも注目！

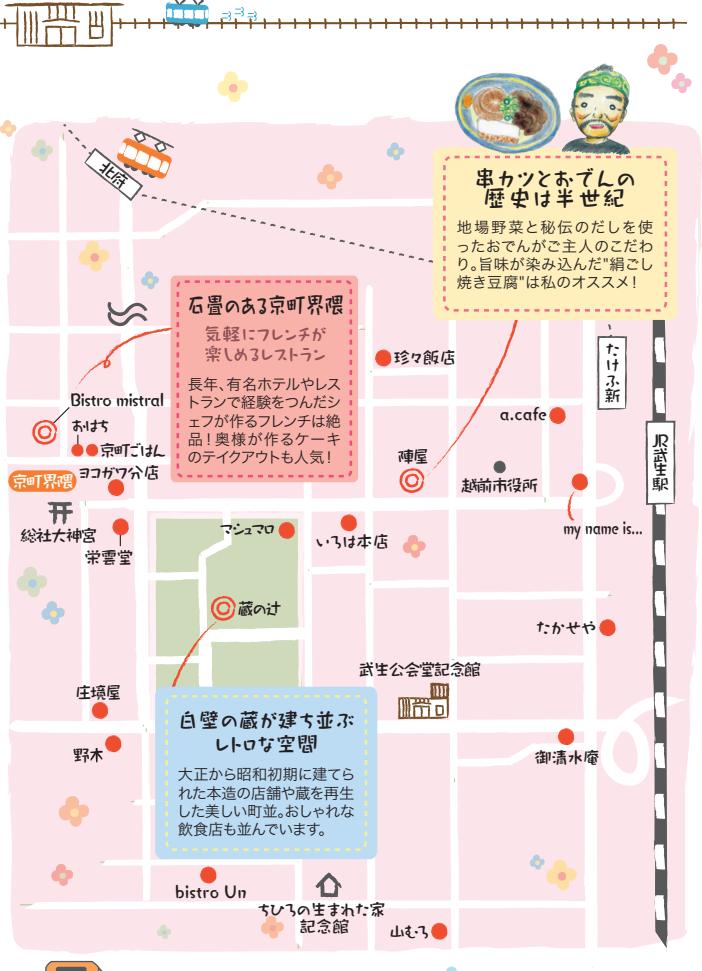
個性あふれる
モラクターにしてみました！
電車たち

福鉄路線図



たけふ新

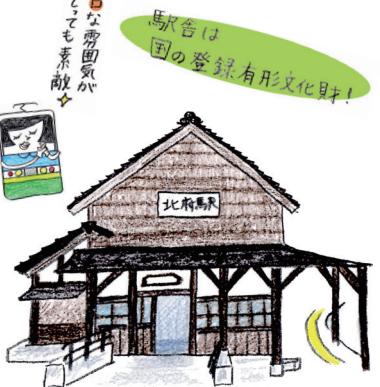
大正13年に開業した「武生新」駅は、現在では、「たけふ新」駅という名前へ変わり、観光交流プラザとして、観光案内やレンタサイクル、グッズ販売などを行っています。



北府

きたふ

北府駅は大正13年に開業し、平成24年に大正時代の面影を残し改修しました。レトロな雰囲気を残す駅舎から、ゆっくりと時間が流れています。併設されている北府駅ギャラリーは、福井鉄道のあゆみや当時に実際に使っていた鉄道部品や歴代電車の写真パネルなど約120点展示しています。



西鯖江 にしさばえ

西鯖江駅にある鉄道資料館。展示品の中には、ズラリと並んだ福井鉄道バスガイドの歴代制服がありました。またひとつ、福鉄の発見ができた私は、鼻を利かせて再び歩き出しました。

三・ト&デリカささき

福井県産コシヒカリに 国産豚肉を巻き、
パン粉をつけてフライした
歩きながら食べられるソースカツ丼!!

注文を受けて
揚げてくれるから
アツアツが
食べれる♪



ヨーロッパン キムラヤ



しあわせ温めると
大福のおもちが
トロ~となって
さらにオイシイ



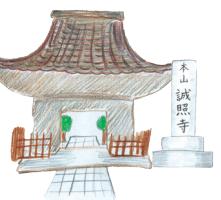
戦時中に兵隊さんが原材料を仕入れ整備のもの。
鯖江のヨーロッパンキムラヤが製造し販売していた。

鯖江三十一大連隊にも納めていた軍隊野戦麺也



植田家長屋門

鯖江藩の家老職を代々勤めた植田家の表門。
長屋門とは、敷地の周囲をめぐらす長屋の一部を門としていたことに由来する。



西山公園

郷陽溪

『日本の歴史公園100選』に選ばれた西山公園。春には桜やつじが咲き誇り、秋には1600本のもみじで山全体を覆う自然豊かな公園です。駅舎にはレッサーパンダがあちらこちらに隠れています。暖かみのある木造の駅舎で、のんびりと電車を待つてみませんか。

西山公園内の
西山動物園

レッサーパンダ!!

馬入合のじこに
シカパラの子ラクガ!

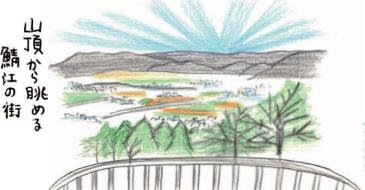
ユーモラスなお化粧さんが
たくさん並んでいます!

うたう地蔵さん♪

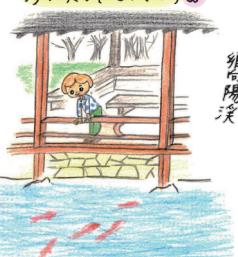
もしもし?



西山公園は
桜・つじ・もみじの名所
もあり、冬の時季は
多くの人でにぎわいます♪



山頂から眺める







清明

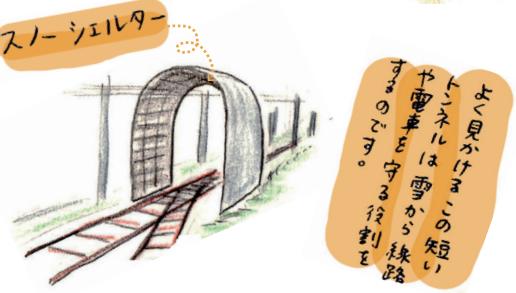
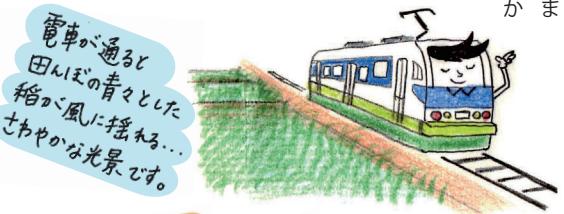
せいめい

田んぼ沿いを進んでいく福鉄電車。夏には青々とした葉、秋には黄金色をした稻に包まれます。自然が生み出した澄んだ空気の賜り物をかみしめながら、次の駅を目指します。



江端

えばた



ベル前

まえ

『ショッピングシティベル』は電車を降りて徒歩5分。様々なジャンルのお店が並んでいます。その昔、松尾芭蕉もこの辺りを歩いたんだと…芭蕉がたどった足取りを思い浮かべながらベルを後にしました。



この橋と玉之江の橋(花堂最寄)辺りで
木戸芭蕉が歌を詠んだそう。



花堂

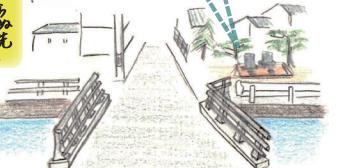
はなんどう

“気になつたら寄つてみる”ぶらり散歩には欠かせない心構えです。片隅に佇む玉江跡の碑には「月見せよ 玉江の芦を刈らぬ先」の句が書かれています。これは、松尾芭蕉が敦賀に入った時に詠んだと伝えられおり、葦の穂波にうつる月の美しさを詠つたものです。



「玉江跡」の碑
月見せよ 玉江の芦を刈らぬ先

この付近で詠んだ句：



狐川にかかる玉江二の橋

赤十字前

せきじゅうじまえ

おでこ民家園は、福井に生き残った先人たちの暮らしを見ることできる古民家園です。県内を代表する、江戸時代に建てられた大庄屋から5棟と倉庫が移築・復元されています。



旧岡本家住宅

雪深い土地は屋根の勾配は急、軒下も高い。

雪の降らない土地は屋根の勾配は緩やか、軒下も低い。



建築年代：18世紀初め～寛永3年
旧所在地：若狭町



旧城地家住宅

雪深い地図代表!

雪の降らない地図代表!

建築年代：嘉永5年
旧所在地：大野市

晩秋から初夏の天気が良い日は白山の眺望がとてもキレイ！古民家は夏涼しい造りをしています。縁側に座って読書など楽しめます。今まで炊飯実演も開催しています。



朝日山不動寺



左内公園



芭蕉宿泊地洞哉宅跡



3 3 3

けこうリアルな動物オブジェがたくさんあるよ！

左内公園と左内町を見守る
ように建つ橋本左内先生の像

この背中、
ご立派です!!

左内先生の像

福井に訪れた際、
芭翁といふ人の家に
泊まつたそうです。

松尾芭翁が
奥の細道の旅で

商工会議所前

しょうこうかいぎしょまえ

(木田四ツ辻)
路面区間に入り、車と一緒に走り出したり信号を待つたり。車と電車が行き交う街並みは珍しく、運転士は鉄道を走る免許と軌道を走る免許の両方が必要なのです。

電車と車が共に暮らす在り方を見つめ直したいですね。

足羽山で産出される砂岩谷の
岩肌を背にした不動明王… 今のおじいさんの生活でも教訓としなければならないものです。
「あさみ門の美しさに圧倒されました。」

足羽山公園口

あすわやまこうえんぐち

(毛矢町)

橋本左内先生の啓発録は昔に書かれたものだけど、
左内公園と左内町を見守る
ように建つ橋本左内先生の像

福井に訪れた際、
芭翁といふ人の家に
泊まつたそうです。

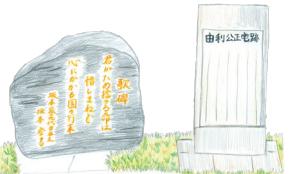
松尾芭翁が
奥の細道の旅で

福井城址大名町

福井の市街地を貫いて流れる足羽川。その堤防には『桜の名所100選』に選ばれた桜のトンネルがあり、ガス灯が点いた夜桜も幻想的で美しい。福井にゆかりのある歴史上の人物はここに来ればよく分かります。

由利公正広場

坂本龍馬と由利公正は仲が良かったと言われている。福井のみならず近代日本の国づくりに大きく貢献した。



由利公正の目線は、恩師の横井小楠が寄留していた居宅跡への方向を向いています。



ガス灯



福井地方裁判所

正面玄関ホール奥壁に取り付けられた高さ約8m、幅約4mのステンドグラスは堂本印象画伯の「菜園」をモチーフに作られた。



ヨーロッパ軒(総本店)

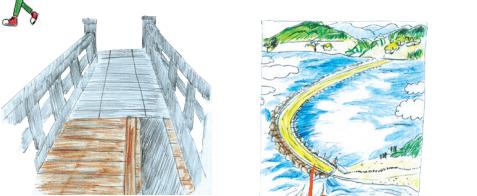
福井のソースカツ丼と言えばここ！シンプルだけれどこれが美味しいと評判！じ県外からのお客さんで行列が絶えない！





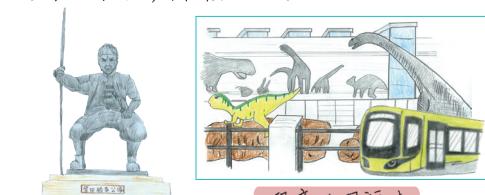
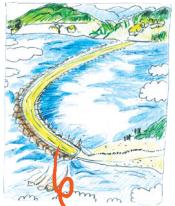
福井駅
ふくいえき

今回は、福井市ボランティアバンク“語り部”さんにご案内していただきました。



半石半木の橋・舟橋についた鉄鎖

半分が落石で半分が木で造られた半石半木の橋。
敵が侵入してきた時は木を打ち壊し防いでいる。
舟橋に使っていた鉄鎖は資料館で見ることができます。



柴田勝家像

電車はJR福井駅西口まで行きます。
柴田勝家は織田信長からの信頼も厚く、すると、突然怨恨が！
信長の妹のお市と夫婦となり、まるで本物！大迫力でお迎えします！

怨恨王国福井



仁愛女子高校

じんあいじょこうこう

大きな池、緑いっぱいの庭園をながめご

平成26年にホームを改修。ホーム幅70cmから2mになりました。ホームとの段差もなく、光る駅名標を設置したことで夜間も明るくなりました。安心して電車を待つていられます。

福井市立郷土歴史博物館

ここへ来れば
福井の歴史がよく分かる!



歴史を知っていると、
街歩きがもっと楽しくなるね

養浩館 庭園

住宅街にあります。
本当に静かで優雅な
ひとときを過ごせます。



たたずんで
池のコイは食欲旺盛だったのに!

田原町駅の風景

えちぜんのキーボード
行ったり来たりへ♪
福鉄のワクワクが
行ったり来たりへ♪

乗り換えるなし
普段の近くまで行けるね
出会いが好きかな~♪

軌道線を
走るには
そのため
運転免許が
必要なのです

福井・金沢生まれの駅舎です

Sympa
シンパ

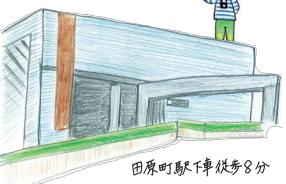


福井で作られた
のかね カバン
60 や ナビ
こだわりのモノ、
取り扱っていますや

入口の
メモページ
奉納

福井県立美術館

大人から子どもまで美術に親しみることできる
美術館を目指しています!



田原町駅下車徒歩8分

年に2~3回企画展を開催。
日本初公開の作品も
展示了り注目です。

少年の指定席

表 石智

高校時代の三年間は、毎日が小さな旅だった。一時間かけての電車通学。ひとつずつ止まる駅には、それぞれの表情があった。始発の武生を出て四つ目に上鯖江という駅がある。いつもそこから乗つてくる親子がいた。足が不自由らしい少年を、かなりの年配と見うけられる母親がおぶつてくるのである。

田舎の電車とはいえ、一応朝のラッシュ時である。武生駅でほぼ座席は埋まってしまい、二つ目以降の駅で乗る人はみな立つことになる。通勤や通学の人間がほとんどなので、なんとはなしにそれぞれの定位置があつて、互いに言葉こそ交わさないが、その時間のその車両での顔見知りといった関係になる。

どんなに混雑していても、上鯖江まで空いている座席があつた。二両目の真ん中あたり。そこが少年をおぶつてくる母親の定位置なのである。

はじめのうちは、乗つてくるたびに誰かが席を譲つていたのだろう。が、そこに乗りあわせる人たちの暗黙の了解みたいなものがいつのまにかできて、どんなに混みあってもその席には座る人はいなかつた。

座席の色が違うわけでもない。「お年寄りや体の不自由な人に席を譲りましょう」。そんなシールがでかでかとはつてあるわけでもない。お互いに名前も知らない。何をしているのかも知らない。

けれど一日の中のある時間を共有している。そこから生まれた不思議なつながり。そこから生まれたシルバーシート。

高校を卒業してから七年になる。あの電車に乗りあわせる人々の顔ぶれもずいぶん変わったことだろう。今でも上鯖江で、あの親子は乗つてくるのだろうか。ならば今でも上鯖江まで、あそこの席は空いているだろう。二両目の真ん中あたり。